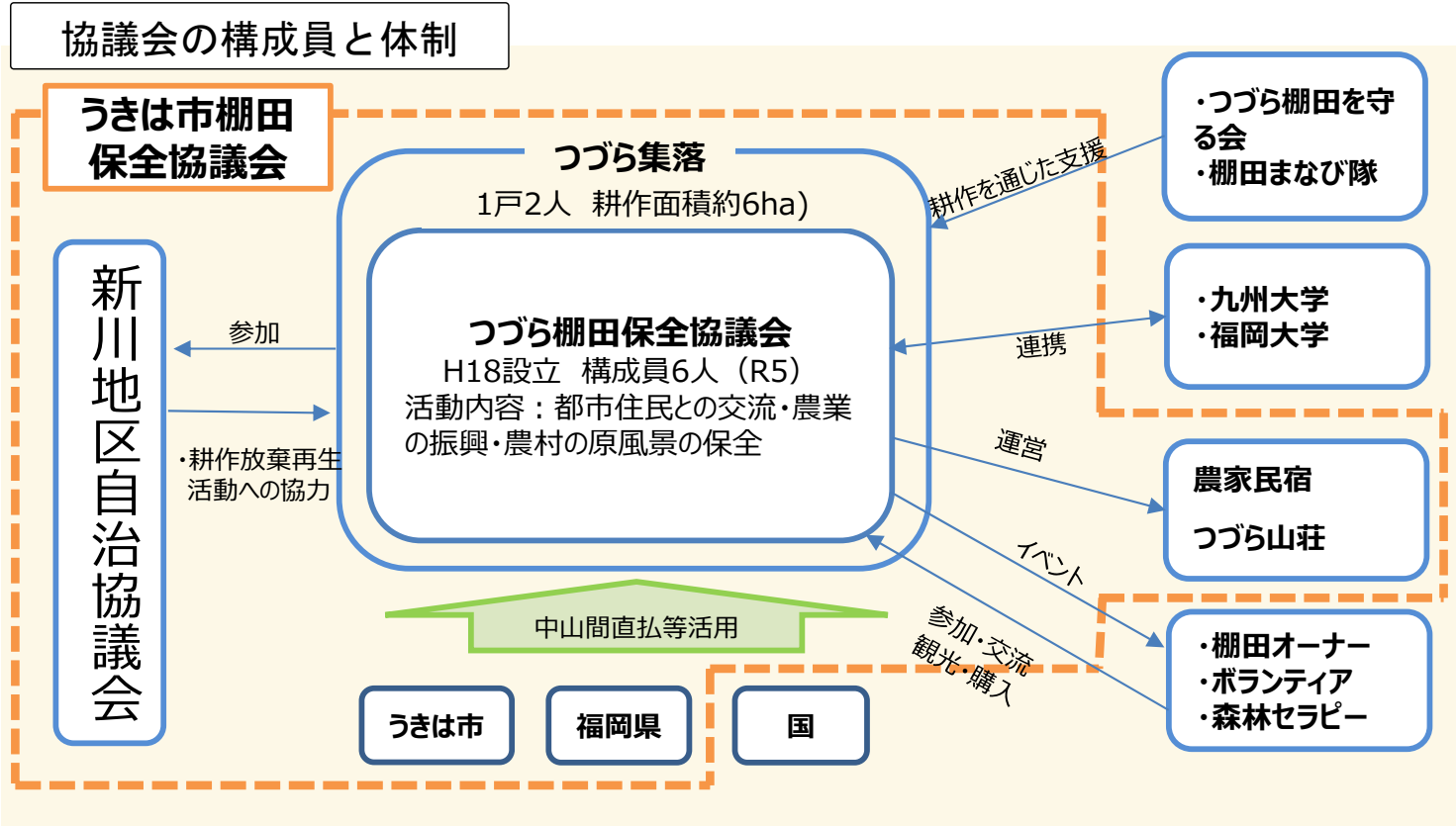


○地域内外からの多様な関わり合いを増やし、棚田の守り手となり得る活動を推進し、持続性のある棚田保全活動を目指す活動を実現。

基本情報




- 棚田の名称 : つづら棚田
- 面積 : 6ha
- 指定棚田地域 : 旧姫治村
- 認定・表彰実績 :
日本の棚田百選認定、
つなぐ棚田遺産認定、
美しい日本のむら景観コンテスト受賞



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
中山間地域等直接支払交付金
- 活用のポイント
地域外の非農家を巻き込んだ農作業活動の実施に向け、イベント会場や農作業実施箇所周辺を整備。



コンシェルジュの活用状況

- 任意団体が共同で所有する田植え機などの農業機械の更新等に必要な資金が捻出できない状況を相談。
→市役所に来庁していただき、相談内容についてのヒアリングを実施、今後のため法人の設立等、農水省の支援が受けられるよう情報提供を行うとの回答をいただいた。

取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

高齢化による担い手不足が深刻な状況であり、耕作放棄された棚田が地域内でも目立っていた。また、狭小な区画なため大型機械による作業の効率化・省力化が困難で、農作業に多大な労力が必要であった。



耕作放棄された棚田

鳥獣被害が発生

イノシシが棚田へ侵入し、畦を掘り返して石垣が崩れる等の被害が発生。耕作を断念しようとする農家もあった。

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・都市農山村交流と鳥獣害対策
鳥獣害対策で電気柵を設置するため、田の畦や付近の道路などボランティアと一緒に草刈を実施。また、彼岸花球根の植え付けは棚田オーナーがボランティアで参加し地元住民と共同で実施した。ボランティアに対しては中山間地域等直接支払の棚田加算を活用して昼食を提供。



ボランティアとの協働活動

活力づくり

・棚田オーナー制度の充実

棚田オーナーや体験型の活動への参加方法を検討し、オーナー制度の充実を図った。



棚田オーナー制度での活動

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

・農地保全と景観維持

電気柵の設置等の対策でイノシシの被害を防ぐことができた。また、彼岸花の季節にはこの景観を見るために2000人もの人が訪れている。

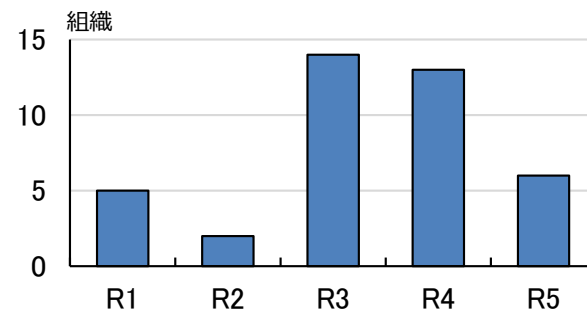


活力づくり

・棚田オーナー制度の維持と継続

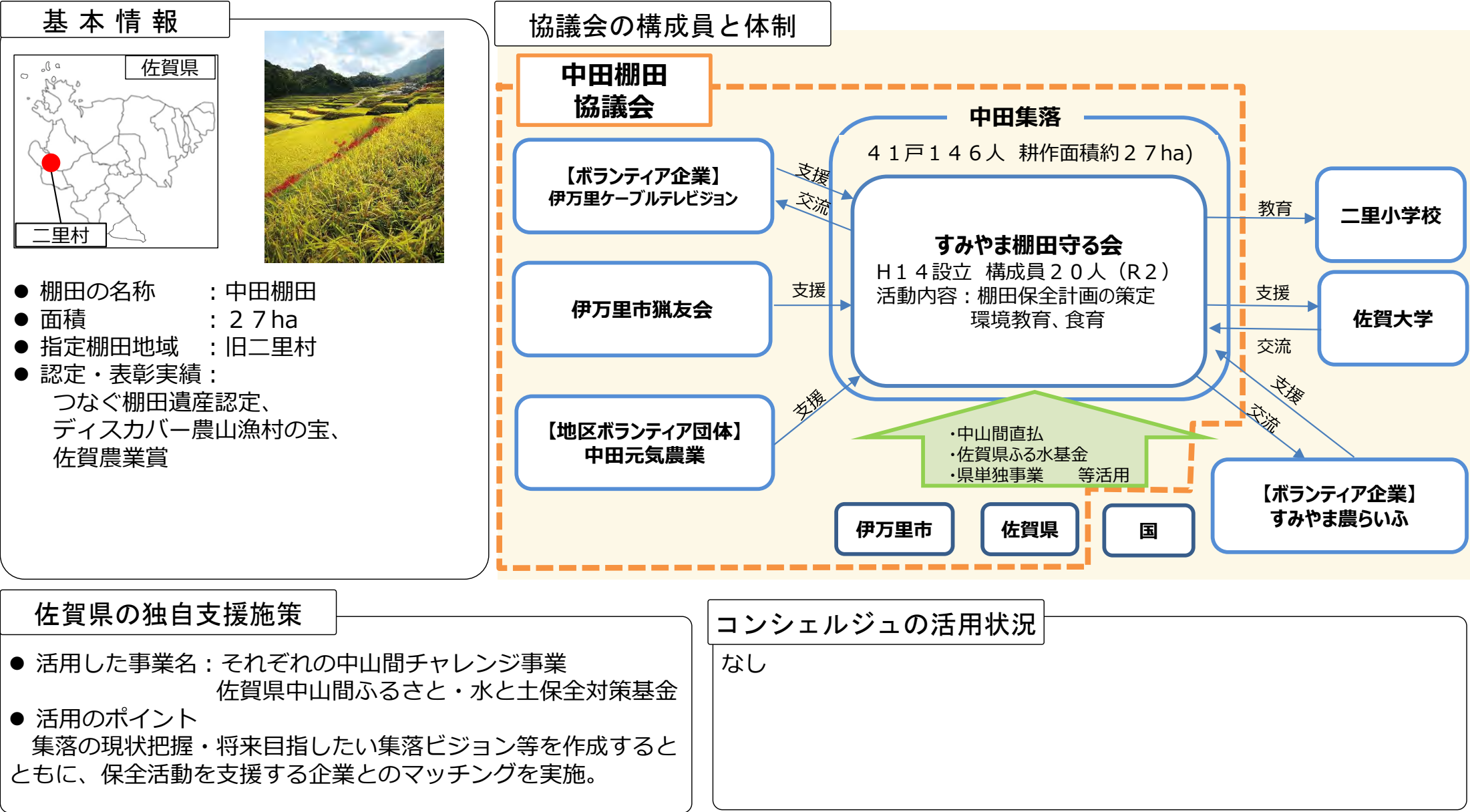
20年以上継続している棚田オーナー制度で、棚田加算を活用しておもてなしの充実や受入オーナーの枠確保を図ったことで新規オーナーが増えた。

新規棚田オーナー組織数



※令和2年度に計画策定

○担い手の確保に向けた支援と地元企業による継続的な棚田保全活動の実施



取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

高齢化や後継者不足が進み、耕作が放棄される農地が増加していた。



耕作放棄

耕作放棄された農地が増加し、害虫の発生、景観を悪化させる等の悪影響が発生していた。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

担い手の若返り

担い手（オペレーター）確保のため、大型特殊免許取得に必要な費用を、中山間直払を活用してR4から補助を実施。



ワークショップによる地域課題の整理

活気づくり

棚田周辺の環境保全

ボランティア企業等と一緒に、耕作放棄地や水路等のの保全活動を実施する。保全活動以外にも、昼食等で参加者との交流も実施。



耕作放棄地の草刈り



参加者と交流

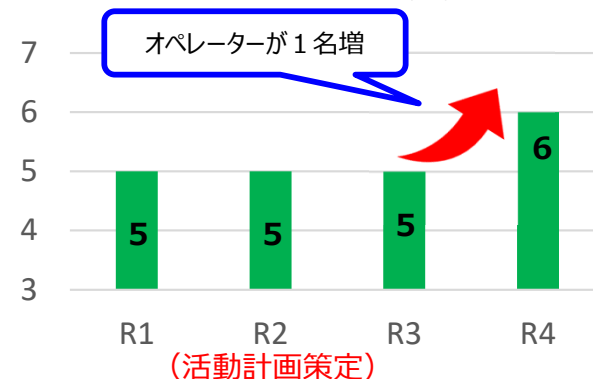
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

担い手の確保

大型特殊免許取得の補助を行った結果、若手が免許取得に向け自動車学校への入校。将来の担い手（オペレーター）を確保。

オペレーター数の変化



活気づくり

ボランティア参加者の定着

ボランティア企業の社員が、保全活動に参加する人員を体制を構築。

ボランティア参加者数の変化



34 球磨村ムラまるごと棚田博物館計画

【くまむらの棚田群・熊本県球磨村】

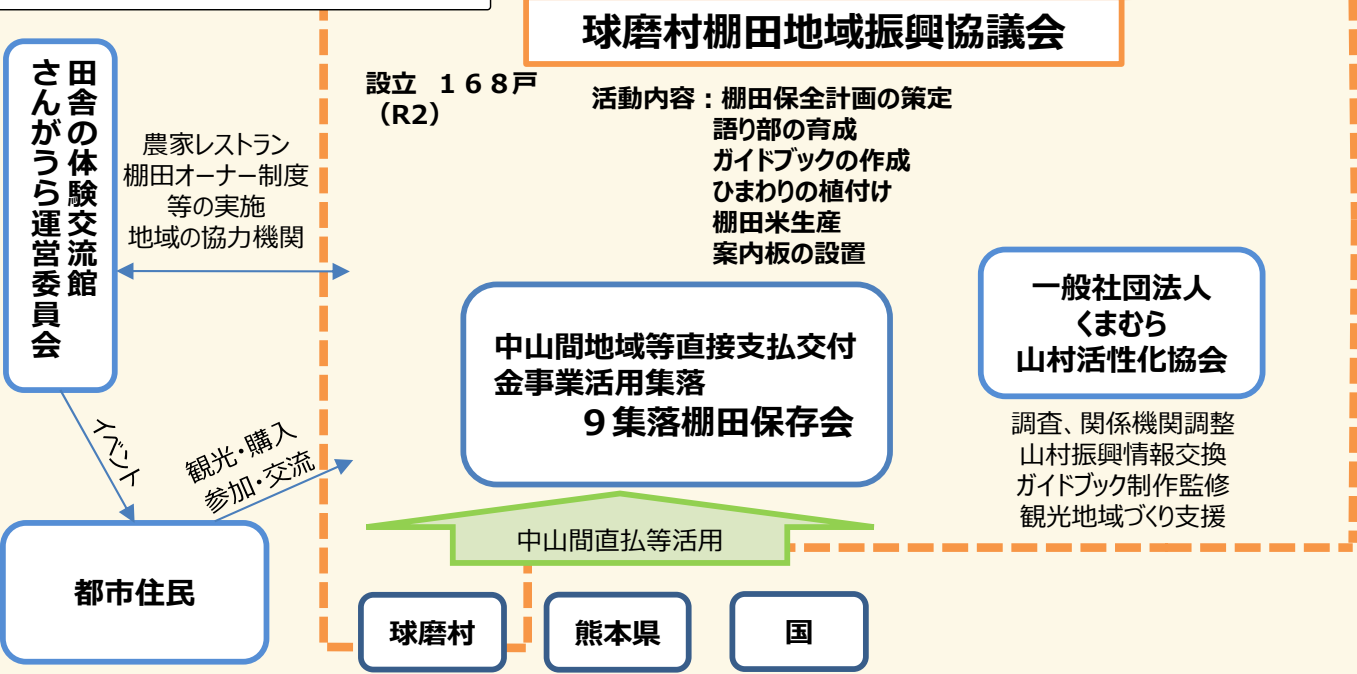
○歴史的資源として価値を有する棚田を後世に継承することを目的とした 棚田博物館構想に基づく棚田保全と地域づくり

基本情報



- 棚田の名称 : くまむら棚田群
- 面積 : 37.7ha
- 指定棚田地域 : 旧一勝地村、旧神瀬村
- 認定・表彰実績 :
 - 日本の棚田百選認定 (松谷棚田、鬼ノ口棚田)
 - つなぐ棚田遺産認定 R3

協議会の構成員と体制



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
 - ・農山漁村振興交付金 (中山間地農業ルネッサンス推進事業)
 - ・中山間地域等直接支払制度



- 活用のポイント
 - ・棚田地域協議会、村、大学等が連携し、棚田の価値と魅力を発信しながら、棚田米の販売、農地保全活動、都市住民との交流など、様々な取り組みを推進している。

コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと 相談なし

取組前の地域の状況

・担い手の不足

棚田地形が広がる9つの中山間協定集落は、直接支払交付金事業を活用しながら地域農業を維持してきているものの、地域内の棚田は急勾配であり、農家の高齢化による労働力不足や、担い手が不在の状況。



鬼ノ口棚田

・遊休農地面積の拡大

担い手の不足により徐々に耕作面積の縮小が進み、それに伴って草刈りを行うだけの保全管理面積が拡大している状況。



自己保全

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

・球磨村まると棚田博物館構想

指定棚田地域内の9つの棚田地域について、石垣や用水路等の高い文化的価値を有す歴史資源を後世に継承する仕組み・仕掛けの構築として、ガイドブックの作成と語り部の育成。また、各棚田毎に選べる棚田米の生産・販売を実施している。



棚田米

活力づくり

・オーナー制度の充実

田舎の体験交流館さんがうらでは棚田オーナー制度の導入を契機に野外体験等を企画し実践。棚田空間が持つ価値や魅力をSNS等で発信。交流人口の拡大に繋がっている。



棚田オーナー

土地利用

・良好な景観の形成

景観保全活動として、ヒマワリの花を植え付け、棚田ファンや写真愛好家の撮影スポットとなっている。



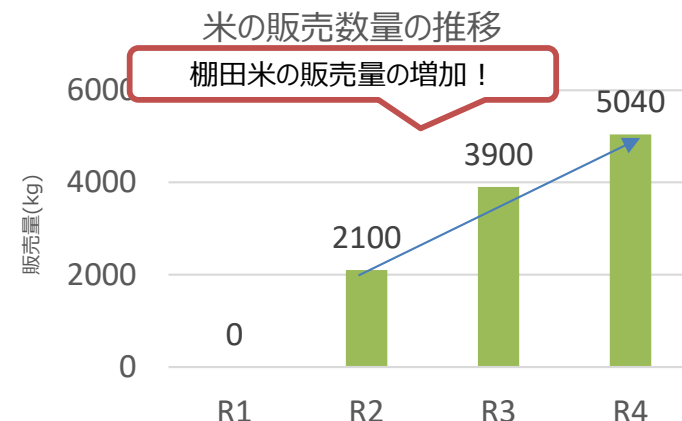
ヒマワリ

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

棚田米のブランド化による販売数量の増加

活動計画制定後の新規取組として棚田米をブランド化し販売



活力づくり

棚田オーナー制度の契約数の増加

田舎の体験交流館さんがうらの実施する、棚田オーナー制度の利用者の増加



35 棚田法活用による世界文化遺産登録集落への関係人口増加

【春日の棚田・長崎県平戸市】

○まちづくり協議会、中山間直払協定組織、平戸市が文化的景観保護制度などを活用し、棚田を含む地域資源を活かした集落の活性化に取り組む。世界文化遺産登録を契機に交流を軸にした取組を更に推進。

基本情報

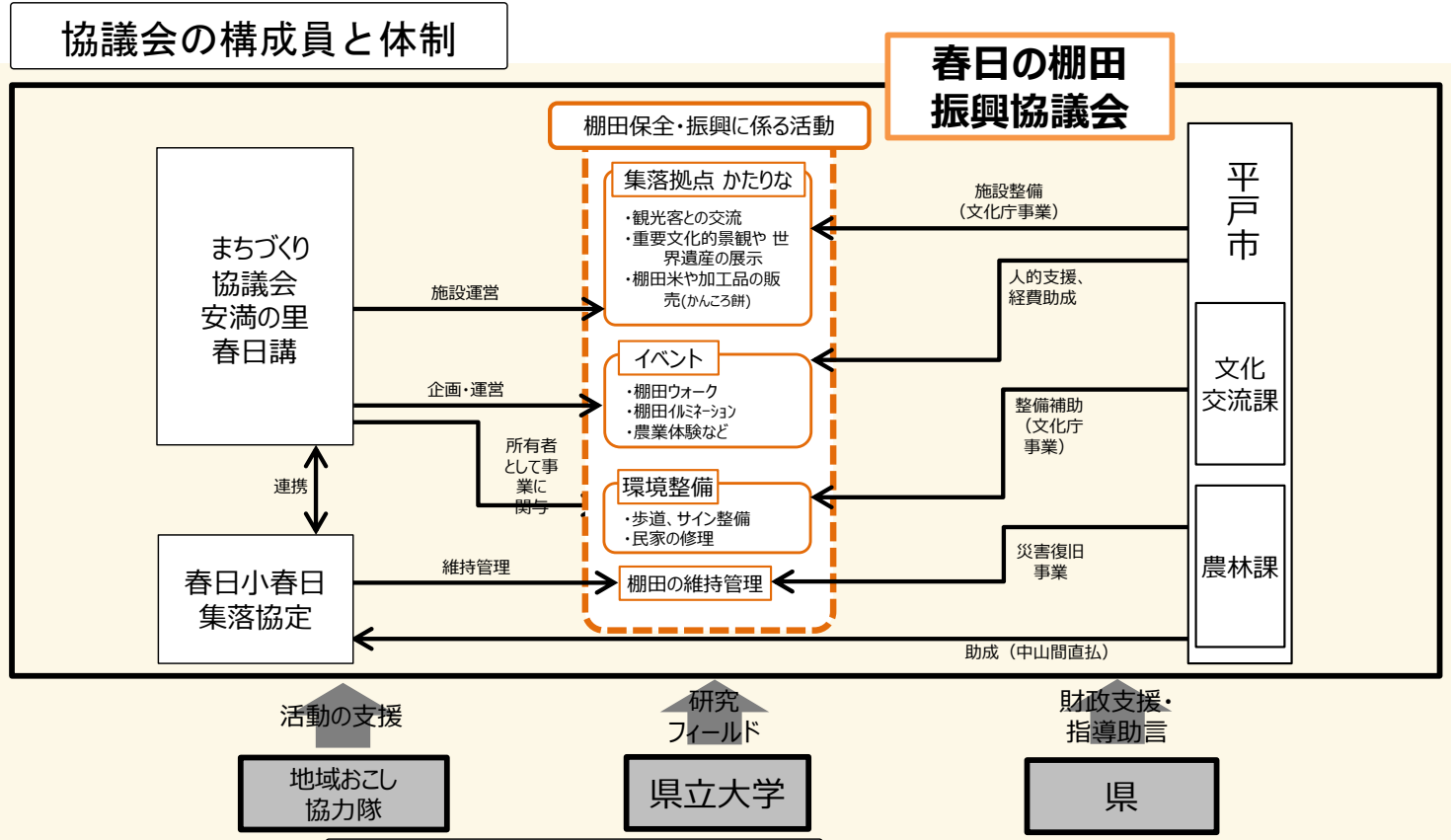
平戸市



長崎県




- 棚田の名称 : 春日の棚田
- 面積 : 11ha
- 指定棚田地域 : 旧獅子村
- 認定・表彰実績 :
重要文化的景観「平戸島の文化的景観」(H22)
世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(H30)
つなぐ棚田遺産認定 (R3)



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
重要文化的景観保護推進事業 (文化庁)
地域文化財総合活用推進事業 (文化庁)
地域おこし協力隊 (総務省)
- 活用のポイント
農水省事業と文化庁事業の効果が十分発揮できるよう留意した。



コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと
- 文化庁文化財調査官から平戸市へメールによる情報提供がある。省庁間をこえた幅広い内容も多く含まれており、企画立案や制度の活用を行う上で有用である。
- 他地区の取組や人材育成、広域連携について相談中。

取組前の地域の状況

人口減少と高齢化が進行

重要文化的景観の選定（H22年）を契機に、コミュニティの維持と活性化を目的として、棚田の保全と活用を行ってきた。現在、集落の戸数が17戸となり、集落維持への危機が顕著となった。



耕作放棄

地形勾配が厳しすぎるので、基盤整備事業が実施できず、区画が小さいなど、営農条件が厳しい農地は耕作放棄されている。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

・商品開発・6次産業化

春日の棚田米や棚田米を原料とした加工品（平戸春日米のかんころ餅や日本酒）を販売。



・イベントの開催

例年、11月の日没後に、太陽光をエネルギー源とした、7,000個のLEDライトによるイルミネーションイベントを開催。



土地利用

・鳥獣防護柵・罾の設置

ワイヤーメッシュや箱罾を設置し、イノシシによる被害の防止を図る。



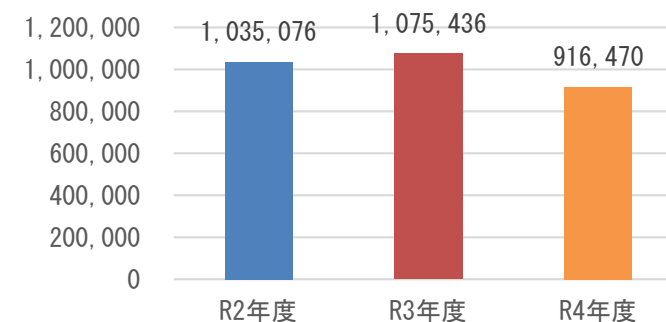
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

加工品販売額の維持

コロナ禍の中で来訪者が減少する中、加工品販売額は横ばい。

加工品売上額（円）

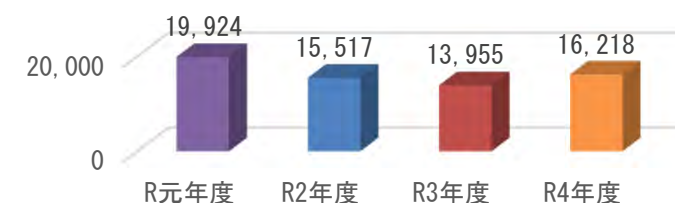


しごとづくり

コロナ禍前に比べ来訪者が回復基調


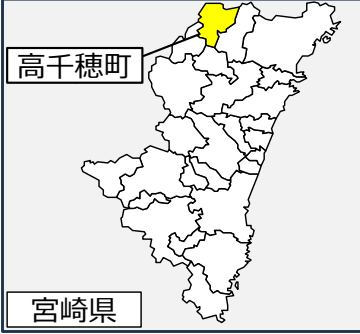
来訪者が一時6千人減少したが、コロナ禍後は力強いV字回復基調にある。

来訪者数（人）

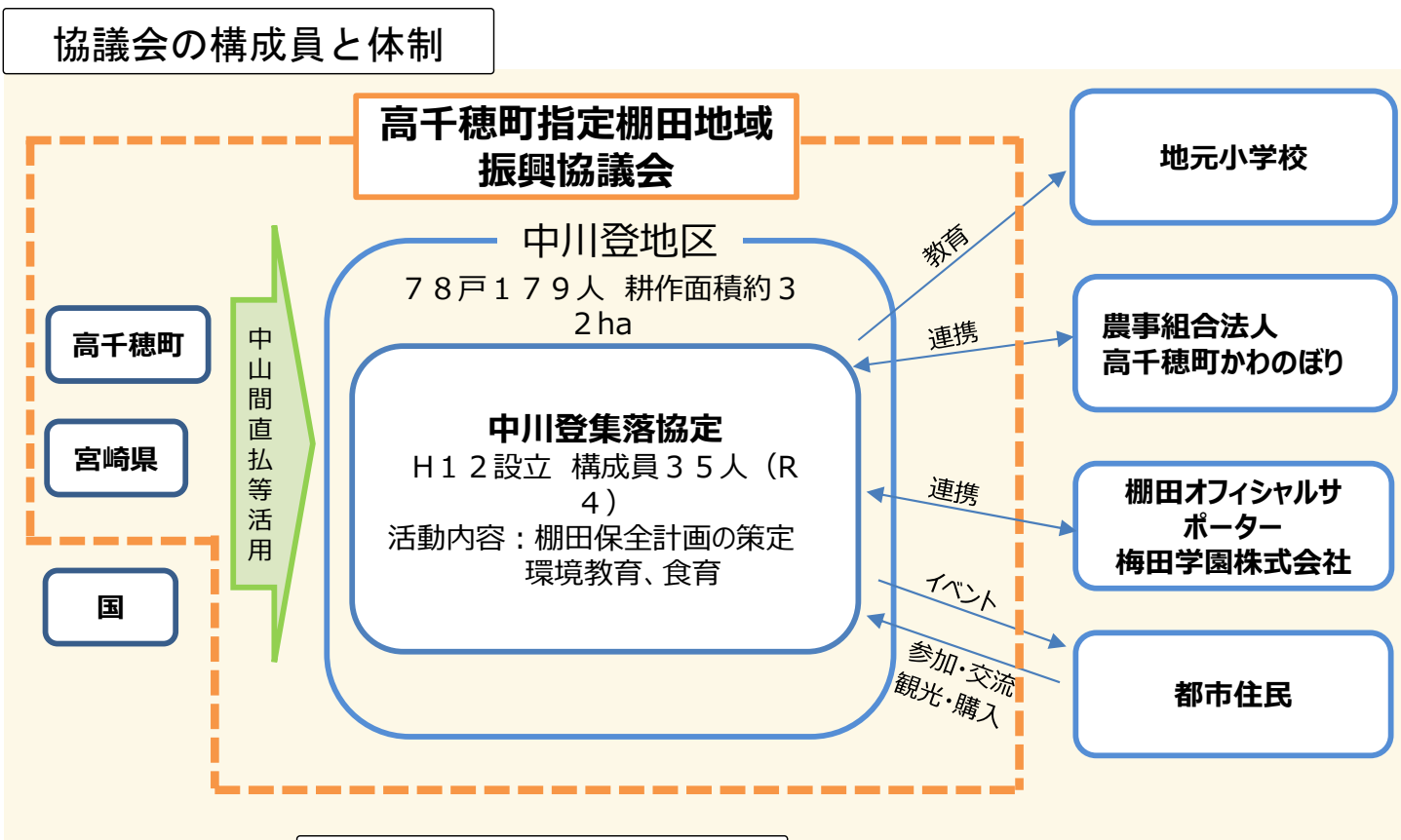


○棚田を活かした参加型イベントや棚田オフィシャルサポーターと連携し、安定した棚田保全活動と集落機能の強化を実現。

基本情報




- 棚田の名称 : 栃又の棚田
- 面積 : 24.46ha
- 指定棚田地域 : 旧高千穂町
- 認定・表彰実績 :
日本の棚田百選認定、
つなぐ棚田遺産認定、
世界農業遺産認定、
ひなたの棚田遺産認定、
美しい宮崎づくり知事表彰



活用した関係省庁の事業

- 日本型直接支払制度
・ 中山間地域等直接支払交付金
- 活用のポイント
・ 共同利用機械の購入
・ 電気牧柵の管理修繕
・ 田んぼアート米による農地景観の保全



コンシェルジュの活用状況

- 九州農政局宮崎県拠点 地方参事官と「中山間地域等直接支払制度」の継続にかかる意見交換を実施
- 農水省「つなぐ棚田遺産」のサポート団体実績企業である梅田学園株式会社への贈呈式に参加

取組前の地域の状況

高齢化の進行・後継者不足

当該地区には以前から耕作放棄地は少なく、地域住民によって適正な農地保全が行われていた。

地区内の一人暮らしの農家が亡くなり、その農地を今後どうするかの話し合いを行ったことをきっかけに、平成25年に「農事組合法人 高千穂かわのぼり」を設立し、地域の農地を維持するための持続可能な生産体制を確立した。



オペレーターの研修

しかし、近年では、法人のオペレーターの高齢化や受託面積の拡大により、担い手の確保や組織体制の強化はもちろんのこと、収入の安定が課題となっている。

また、集落内の高齢化が進むことで集落の機能が低下することを危惧している。

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

・棚田米のブランド化

環境保全型農業の取組により、棚田米の付加価値を付け、農業者の所得向上を図る。

土地利用

・作業の省力化

中山間直払の棚田加算を活用して、ドローンを利用した防除作業を行い、作業の省力化を図る。

くらしづくり

・集落機能の強化

集落内にコミュニティサロンをつくり、体操や、レクレーション、交通安全教室等の活動を行い、地域のコミュニケーション作りや高齢者や高齢農家に優しい、住みよい地域作りを行う。

活力づくり

・棚田を利用したイベントの実施

地元の企業との連携や関係機関と連携し、棚田アートを実施し、交流人口を20人増加させる。



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

土地利用

オフィシャルサポーターとの連携

梅田学園株式会社が、水路の泥上げや草刈り等の共同活動、ドローンの防除作業を行うことで、作付面積の維持や作業の省力化に繋がっている。

また、梅田学園株式会社が経営する宿泊施設で棚田米の提供やPRを行うことで、棚田の魅力発信に繋がっている。



ドローン防除の作業



宿泊施設での棚田米の提供

活力づくり

関係人口の増加

棚田アートを開始して今年で12年目となり、今では、SNS等を活用しながら参加者を募集し、県内外から毎年100人が参加。関係人口の増加と地域活性化に繋がっている。

棚田アート参加者数

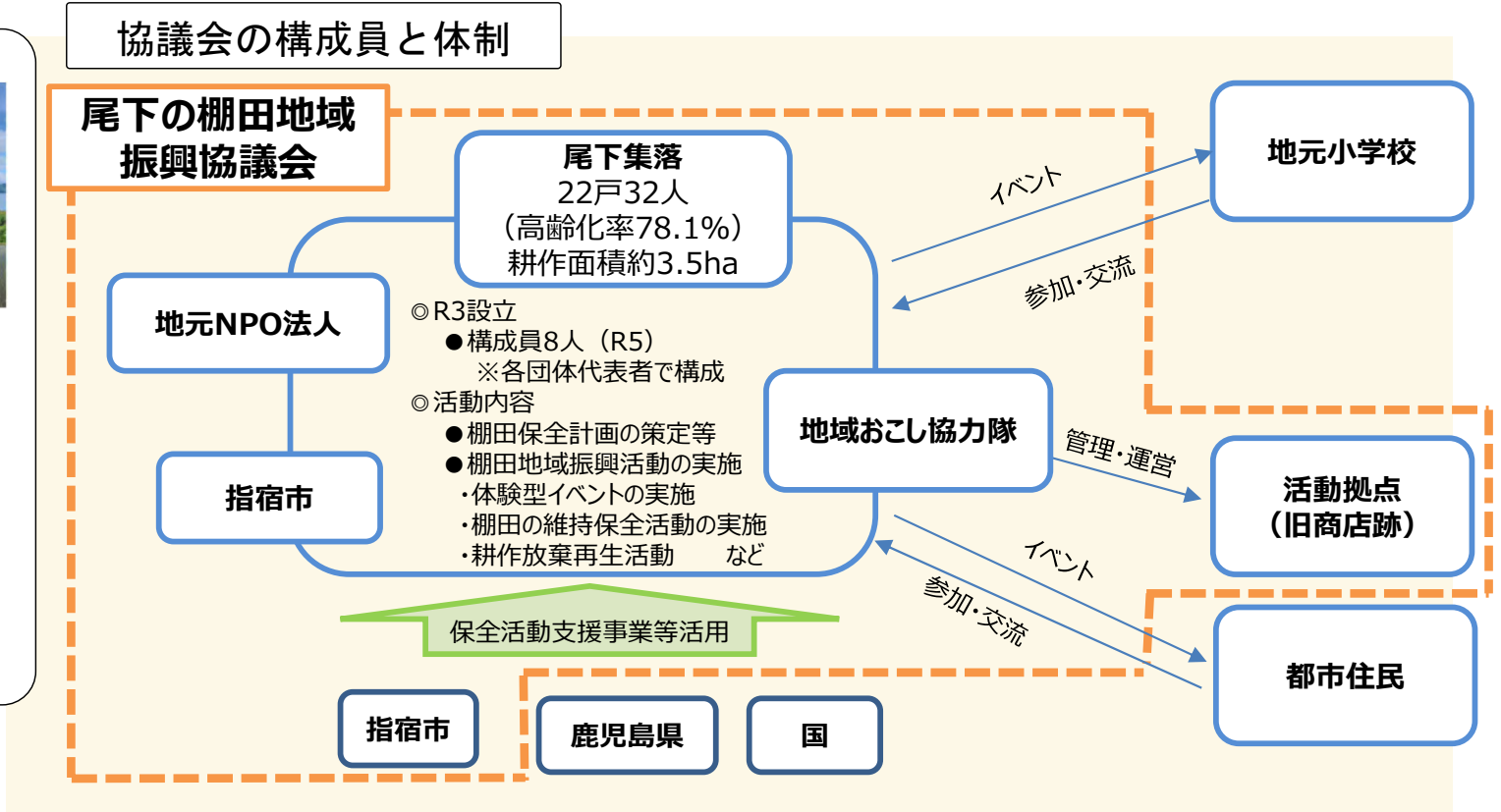


○棚田における体験型交流イベントを実施し、交流人口の創出を実現。

基本情報




- 棚田の名称 : 尾下の棚田
- 面積 : 3.5ha
- 指定棚田地域 : 旧利永村
- 認定・表彰実績 :
 - ・指定棚田地域の指定 (R3.6月)
 - ・つなぐ棚田遺産認定 (R4.3月)



活用した関係省庁の事業

- 棚田地域振興緊急対策事業交付金
- 活用のポイント
 - ・棚田への耕作・アクセス道の整備
 - ・地域内外住民・観光関係者等との話し合いの活動の実施
 - ・棚田での体験交流イベントの試行



コンシェルジュの活用状況

- なし

取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

高齢化による担い手不足が深刻な状況であり、耕作放棄された棚田が地域内でも目立っている状況であった。また、狭小な区画のため機械化が困難で、農作業に多大な労力が必要であった。



耕作放棄

棚田は、農業生産条件も悪く、生産性が上がらないため、住民の高齢化に伴い耕作放棄地が増えていた。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・棚田の復旧

地域おこし協力隊が集落住民やボランティアへ呼びかけを行い、棚田の耕作放棄地の再生活動を実施。



活力づくり

・協議会の体制強化

地域おこし協力隊を新たに1名募集し、棚田の維持・保全並びにイベント実施に係る体制を強化する。

しごとづくり

・体験・交流イベントの実施

田植えや稲刈り等の農作業体験イベントを実施し、交流人口の創出を図る。

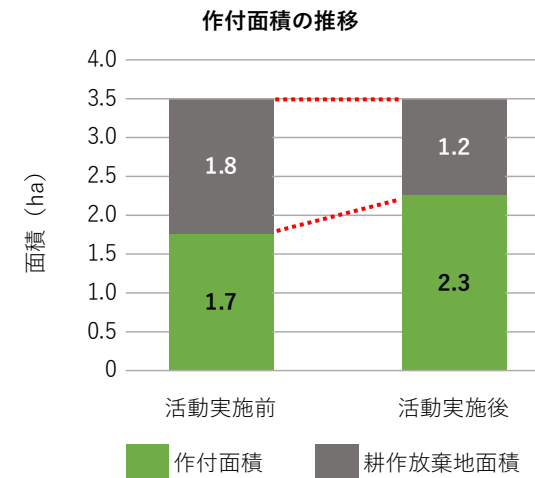


取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

耕作放棄面積が減少

耕作放棄された棚田を復旧し、耕作放棄面積が約3割減少



しごとづくり

体験・交流イベントの実施

地協議会が主催の体験型イベントを実施し、交流人口が増加

